

園芸タイムリー情報 《8月上・中旬版》

令和4年8月1日発行 第6号

【上川農業改良普及センター】

Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009

E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp

HomePage

<https://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.html>

全作物共通

天気は数日の周期で変わり、平均気温は高く、降水量はほぼ平年並み、日照時間は平年並か多い見込みです。

- ①ハウスは高温障害に注意して管理します。適切なかん水と追肥・葉面散布を行い、草勢維持と収量及び品質の安定に努めましょう。
- ②遮光資材を利用する場合は、曇天時の被覆は避け、過度な遮光とならないように注意しましょう。
- ③高温期は収穫後の鮮度や内部品質が低下しやすいため、朝夕の涼しい時間帯に収穫し、速やかに倉庫や予冷库に搬入しましょう。
- ④各種病害虫の多発時期を迎えるため、観察や予察情報に基づき適期に防除します。特に、高温期に多発する軟腐病、アザミウマ類、コナガ、アブラムシ類、ハダニ類、及び草勢低下や軟弱な生育で発生しやすいうどんこ病、べと病の発生に注意しましょう。
- ⑤高温時の薬剤散布は薬害を生じやすいため、高温となる時間帯を避けて夕方散布に努めましょう。
- ⑥高温期の作業時には、こまめな水分補給と休憩をとり、熱中症対策を心がけましょう。

※農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病害虫の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。
気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。
(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)
※掲載されている農薬情報は、令和4年7月20日現在の登録内容となっておりますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□■□ GAP手法の活用 □■□■□■□■□■

【野菜の衛生管理編】

一食中毒の発生を未然に防ぐために 収穫・調整編一

食中毒を起こす微生物を「付けない」「増やさない」ために

- ・作業者：野菜に触る前やトイレの後など、必ず石けんで手を洗う。
下痢、おう吐などの症状がある場合は、野菜に直接触れる作業をしない。
- ・農機具や収穫容器：収穫物等に直接触れる場合は、飲用に適する水等で洗うよう努め、洗った後には、必要に応じて消毒する。
- ・収穫後の野菜を洗う水：飲用に適した水、水質検査で安全性を確認した水等を使用する。
- ・調整出荷施設：小動物や土ホコリが入り込まないようにするとともに、作業後に施設内を整理整頓し、清掃する。
- ・低温保管施設：結露に気を付け、設定温度が保たれているか確認する。また、飲食物などの作業に関係のないものを入れない。

作物名

きゅうり

病害虫
 生理障害名

アザミウマ類

発生状況

少発生

発生時期

6月中旬～



写真：
 花への寄生

写真：果実肩部分へのかすり状食害

発生の状況・要因

- 花や葉に寄生する。
- 果実の肩部分にかすり状の食害痕が発生し、商品価値が低下する。
- 通常、大きな問題にはならないが、高温が続くなどして、アザミウマ類の発生量が多くなると、被害の発生が見られる。

対策

- ほ場周辺の除草に努める。
- アザミウマ類は花の中にいるので、花の中をよく観察する。また、葉に寄生している場合は、葉にかすり状の食害痕が見られるので、ほ場をよく観察し、発生の増加が見られたら、農薬による防除を行う。

<防除の一例>

- | | | | |
|-------------|--------------|--------|------|
| ●ハチハチ乳剤 | 1,000～2,000倍 | 収穫前日まで | 2回以内 |
| ●モスピラン顆粒水溶剤 | 2,000～4,000倍 | 収穫前日まで | 3回以内 |
| ●ベネビアOD | 2,000倍 | 収穫前日まで | 3回以内 |

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

メロン・きゅうり

病虫害
生理障害名

うどんこ病

発生状況

少発生

発生時期

7月中旬～



きゅうりの葉表に発生した白いかび

発生の状況・要因

- ・葉や茎の表面にうどん粉をふりかけたような白斑を生じ、多発生の時は果柄やへたなどにも発生し、商品価値が低下する。
- ・例年、生育後半に発生が多くなるが、本年の乾燥条件により発生が早まった。
- ・過繁茂になると発生しやすい。

対策

- ・ほ場を乾燥させすぎない。
- ・初発を確認したら薬剤散布を実施する。
- ・被害葉や果実は摘除し、残さは適切にほ場外へ搬出する。

＜防除の一例＞

●フルピカフロアブル

メロン・きゅうり：2,000～3,000倍 収穫前日まで 4回以内

●ストロビーフロアブル

きゅうり： 3,000倍 収穫前日まで 3回以内

メロン： 2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内

※ストロビーフロアブルへの浸透性展着剤の加用は薬害を生じる恐れがあるので避ける。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

すいか・メロン・きゅうり

病虫害
 生理障害名

写真：すいか(左)ときゅうり(下)に
 発生したアブラムシと被害葉

アブラムシ類

発生状況

中発生

発生時期

7月上旬～



発生の状況・要因

- 葉の裏に群生し、吸汁害による茎葉の萎凋、排泄物による葉や果実の汚れが発生する。
- ハウス内は温度が高く、露地よりも増殖が早いので注意する。

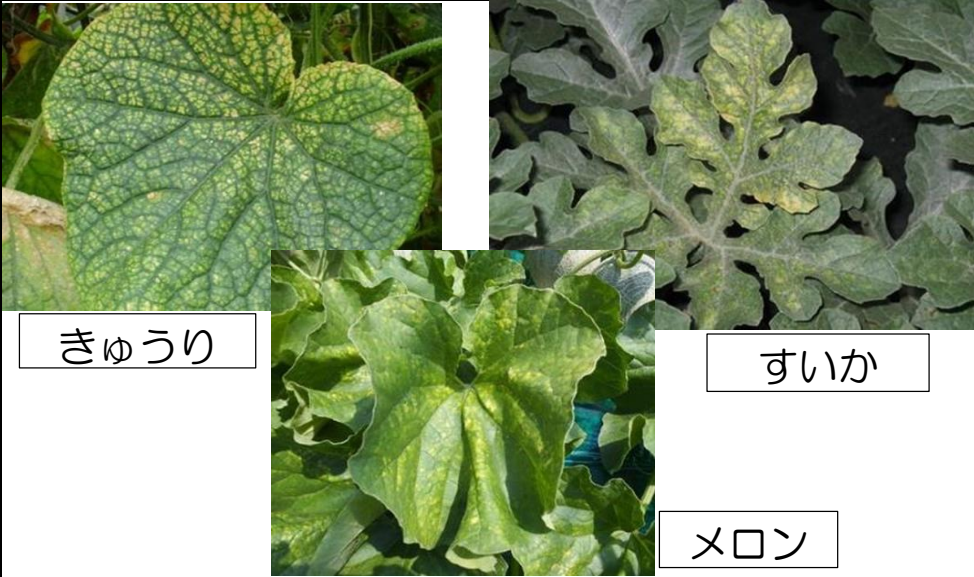
対策

- きゅうりでは葉裏の寄生により、葉表の褐変が見られるので、ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。
- 薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。

〈防除の一例〉

- モベントフロアブル
 すいか・メロン・きゅうり 2,000倍 収穫前日まで 3回以内
- トレボン乳剤
 すいか 1,000倍 収穫3日前まで 3回以内
 メロン 1,000倍 収穫3日前まで 4回以内
 きゅうり 1,000倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	すいか・メロン・きゅうり	
病虫害 生理障害名		
ハダニ類		
発生状況		
少発生	きゅうり	すいか
発生時期		
6月上旬～	メロン	

発生の状況・要因

- 葉の裏に寄生し、吸汁により葉の表に白いかすり状の斑点が現れる。発生密度が高くなると葉全体が黄変枯死する。
- 高温乾燥を好むため、ハウスでは露地よりも早く発生する。

対 策

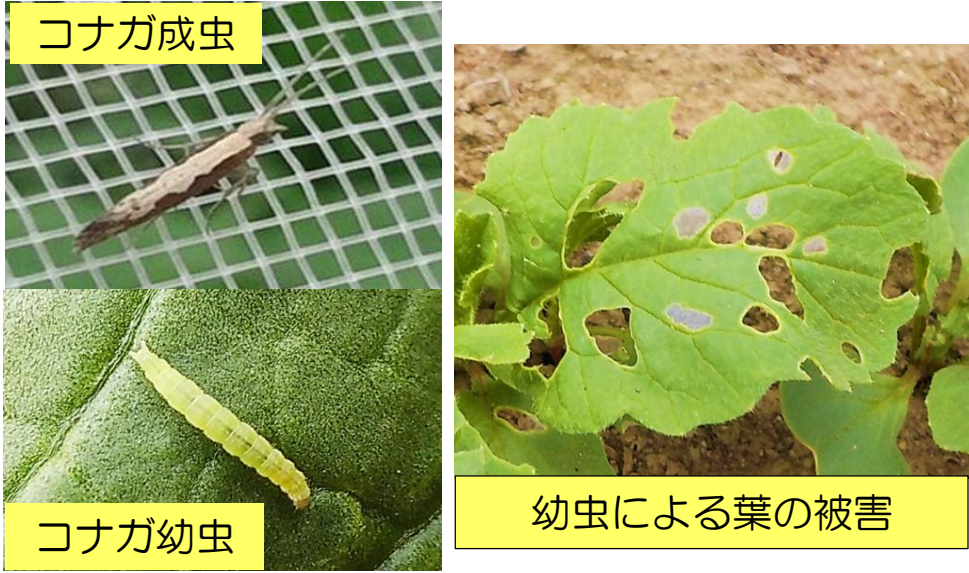
- ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。
- ハウスでは、侵入しやすい出入り口やサイドなどの開口部付近を中心に、よく観察する。
- 薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤年1回の使用に止めるローテーション防除を行う。

＜防除の一例＞

- マイトコーネフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 1回
- ダニサラバフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 2回以内

※上記2剤はハダニの全ステージに効果あり

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	あぶらな科野菜全般	
病虫害 生理障害名		
コナガ		
発生状況		
中発生		
発生時期		
5月下旬～	コナガ幼虫	幼虫による葉の被害


発生の状況・要因

- 幼虫が葉裏に潜み、葉の表皮を残して食害する。
- 本年は幼虫の発生は比較的少なく推移している。
- 7月は成虫の飛来が目立つため、今後も注意が必要である。

対 策

- ほ場周辺の雑草をこまめに除くことで、ほ場に飛び込む成虫を軽減させる。
- 侵入口となる隙間を作らないように防虫ネット（目合い1.0mm）を設置する。
- 品目により薬剤の登録内容が違うので、ラベルを確認してから使用する。
- シアミド剤の防除効果の低下事例が確認されているため、複数系統の薬剤を用いたローテーション防除を実施する。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	パセリ		
病虫害 生理障害名	かびに覆われた葉		
うどんこ病			
発生状況			
少発生			
発生時期			
7月下旬～	白色粉状のかび		

発生の状況・要因

- 葉の表面が白色粉状のかびに覆われる。
- ハウス内温度28℃前後で、乾燥した条件下で発生しやすい。
- 7月下旬に地域で初発を確認したため、発生に注意する。

対 策



- ほ場を乾燥させすぎない。
- 発生前から予防的に薬剤散布を実施する。
- 発病した葉は摘み取り、ほ場外に持ち出して処分する。

＜防除の一例＞

(発生前に7日～10日間隔で散布)

- | | | | |
|-------------|--------------|---------|------|
| ●クムラス | 500～1,000倍 | — | — |
| ●クリーンカップ | 1,000～2,000倍 | 収穫前日まで | — |
| (発生初期) | | | |
| ●アフエットフロアブル | 2,000倍 | 収穫3日前まで | 2回以内 |

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	あぶらな科野菜など葉菜類全般	
病虫害 生理障害名	ウスカワマイマイ	
ナメクジ類 カタツムリ類	 	
発生状況		
中発生		
発生時期		
5月中旬～	チャコウラナメクジ	

発生の状況・要因

- ナメクジ・カタツムリは、ほ場周辺の雑草地、石の下、日陰など暗くて湿気が多い場所を好み、地中で越冬する。
- 葉の食害の他、這った痕の粘液の汚れ、本体やフンの混入が問題となっている。
- 雨天時や夜間は活発に活動する。
- 7月下旬は発生が増加しているため、今後も注意が必要である。

対 策

- 常発ほ場では通気を良くして湿気を放出する。
- ほ場周辺の雑草をこまめに除く。
- スラゴを使用する場合は作物周辺あるいは株元の土壌表面に散布し、作物に付着しないように気をつける。

<防除の一例>

●スラゴ 1～5g/m² (3.3～16.5g/坪) 発生時

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。